

# 北九州市における学びの多様化学校の 設置に向けた論点

*Kitakyushu*  
**Action!**

動かせ、未来。北九州市

# 論点① 学校コンセプト（目指す学校像）について

- 「北九州市教育大綱（令和6年4月策定）」や「北九州市こどもまんなか教育プラン（令和6年8月策定）」では、子ども一人一人を中心に据えた教育、誰一人取り残さない学びといった理念がうたわれている。
- そうしたことも踏まえ、北九州市における学びの多様化学校のコンセプトとして、次のような内容を盛り込んではいかがでしょうか。

- 
- 個々の生徒の多様で複雑な実態や背景に寄り添い、一人一人の個性が尊重され、安心できる居場所となる学校
  - 学びの多様化学校での生活を通して、自分らしさを見つけ、ふくらませながら、前向きに自分の将来を描く場となる学校
  - 卒業後の社会的自立を見据え、集団での学びを通じた協働性や社会性を育む教育（他者との協働、探究的・体験的な学び等）の充実を図る学校

## 論点② 特別の教育課程について

- 生徒が生き生きと学び、社会的自立に資する学力やコミュニケーション能力等を身に付けるための特別の教育課程をどのように考えるか。

- 生徒の学習状況等が多様であることを踏まえ、各教科等の基礎的・基本的な学力の定着に重点を置くとともに、学び直しや習熟度別学習を取り入れてはどうか。
- 各教科等の学習では、集団での授業を基本としつつ、学ぶ意欲をより喚起する観点から、生徒一人一人が自己の興味・関心に応じて、自分なりの方法で主体的に学ぶスタイルを柔軟に取り入れてはどうか。
- 北九州市の特色・強みである「産業」「観光」「自然」「歴史・文化」等を学習材としたより探究的・体験的な学び（総合的な学習の時間など）を充実させてはどうか。  
その中で、自分の“好き”を見つけ、一人で深く追究したり、同じ“好き”をもつ仲間と集い、チームで協働しながら追究したりする学習を展開してはどうか。

## 論点③ 学校生活や教室環境等に係る工夫について

- 生徒一人一人にきめ細かな教育を行ったり、安心・安全な学校生活を送ったりするための時程や通学方法、給食等の在り方をどのように考えるか。

- 
- 生徒の実態や通学に要する時間等を踏まえ、1日4時間を基本とするゆとりのある時程（9：30始業、15：00下校）を設定してはどうか。
  - 朝や放課後の時間を活用してどのような活動を行うことが考えられるか。  
（例）既習内容の学び直し、心身を整えるストレッチなどの軽運動
  - 通学方法については、徒歩、公共交通機関に加え、遠方からの通学となる場合などには、自転車通学や保護者による送迎を認める方向で検討してはどうか。
  - 給食については、市内の他の公立中学校と同様に親子方式（小学校で調理した給食を中学校へ配送）での給食を実施する方向で検討してはどうか。

## 論点③ 学校生活や教室環境等に係る工夫について

- 生徒の学びを支える教職員配置や施設整備をどのように考えるか。

- 生徒の多様で複雑な実態や背景を踏まえ、学びの多様化学校の教職員が備えておくべき資質にはどのようなものがあるか。  
また、SC、SSW等の専門人材の配置にあたり、どのような点に留意すべきか。
- 全教職員で生徒を育てることができるよう、一人の教員を学級担任として固定するのではなく、学年担任制（チーム担任制）を採用してはどうか。
- 教育センターの整備にあたり、設備・備品面からどのような工夫が考えられるか。  
（例）ソファや植物を設置するなど、リラックス効果のある空間にするとよい。
- 遠方に居住する生徒に対する支援の観点も含め、対面授業のライブ配信を実施してはどうか。その際、教育支援室で当該配信を視聴し、学習の支援を受けられる体制を整備することなども考えられるか。